

2019年「胃と腸」賞は佐野弘治氏ら 「小腸の非腫瘍性疾患—サイトメガロウイルス(CMV)小腸炎の 臨床像と内視鏡像」(54巻4号)が受賞

2021年1月20日(水), 新型コロナウイルス感染症の影響で早期胃癌研究会がWeb開催となったことから, 2019年「胃と腸」賞の授賞式もWeb上で行われた。2019年「胃と腸」賞は, 佐野弘治氏(大阪市立十三市民病院消化器内科)らが発表した「小腸の非腫瘍性疾患—サイトメガロウイルス(CMV)小腸炎の臨床像と内視鏡像」(「胃と腸」54巻4号:505-514頁)が受賞した。

受賞者代表として佐野氏が紹介された。続いて, 「胃と腸」編集委員長の松本主之氏(岩手医科大学医学部内科学講座消化器内科消化管分野)より選考過程の説明と祝辞が述べられた。

「胃と腸」賞は, その年に「胃と腸」誌に掲載された論文の中から, 特に消化管の形態診断学・治療の進歩と普及および病態解明に寄与した優れた研究であり, 原則として原著形式の論文に対して贈られる。今回は対象論文134本について, 「胃と腸」編集委員会で厳正な審査を行い, 決定した。

今回の受賞論文は, 佐野氏らがCMV小腸炎7例について, CMV大腸炎53例と比較して, その臨床像と内視鏡像の特徴を検討したもの。検討の結果, CMV小腸炎の臨床症状は出血と腹痛が多くCMV大腸炎では出血と下痢が多かったこと, CMV小腸炎はCMV大腸炎に比べて絶対的免疫不全の割合が高い傾向があることや緊急手術率が高率であること, 大量出血と穿孔の割合が高いこと, CMV小腸炎の内視鏡像では輪状傾向潰瘍と不整形潰瘍が多く, CMV大腸炎で多い類円形潰瘍が少ないことがわかったと結論している。

受賞者挨拶で佐野氏は“名誉ある「胃と腸」賞を受賞できましたことを大変光栄に思います。当院は2020年4月以降, 新型コロナウイルス感染症の中等症患者を治療する専門病院となり, コロナ患者の入院治療を主に行っています。7月までは消化器内科の診療も中止していましたが, その後外来診療を再開しています。この間, 多くの方々にさまざまな援助や励ましの言葉をいただきましたことをこの場を借りて厚く御礼



▲ 2019年「胃と腸」賞を受賞した佐野弘治氏

申し上げます。このたびの受賞にあたり, 共著者の先生方, 論文執筆をご指導いただきました大阪市立十三市民病院顧問の大川清孝先生に厚く感謝いたします。われわれのグループは, これまで広義の炎症性腸疾患(IBD)の内視鏡診断を主なテーマに臨床研究を行っていました。その中でも, 特に感染性腸炎の内視鏡診断の確立に力を入れてきました。今回, 感染性腸炎であるCMV腸炎の論文で「胃と腸」賞を受賞することができ, 喜びもひとしおです。CMV腸炎の内視鏡診断の歴史は浅く, 共著者の大川先生が2008年に本誌において24例を検討したのが多数例での最初の報告ではないかと思います。まだCMV小腸炎の症例は7例と少なく, 今後も症例を重ねていき, 診断や治療につながる知見を見つけていきたいと思っています”と述べた。

その後, 佐野氏から受賞論文のレビューがなされ, 最後に改めてWeb上で視聴していた参加者から称賛の拍手が送られ, 授賞式は終了した。